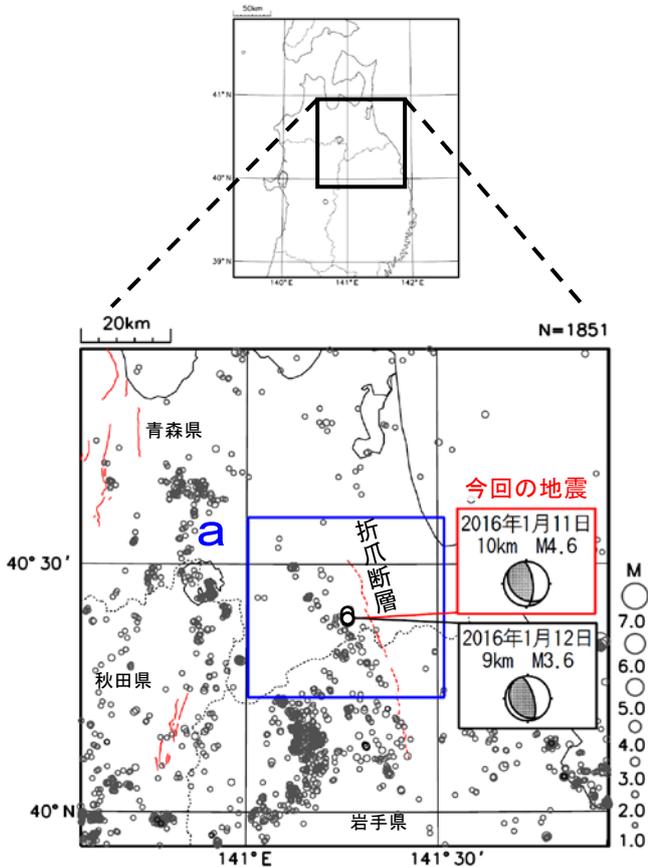


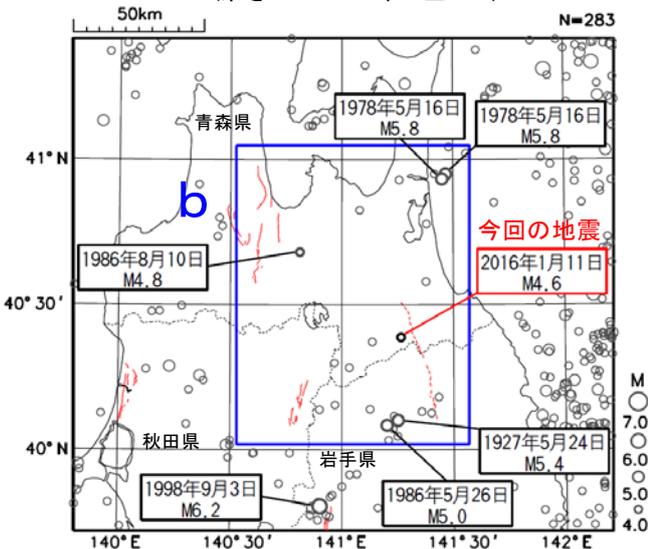
# 1月11日 青森県三八上北地方の地震

震央分布図  
(2002年10月1日～2016年1月31日、  
深さ0～30km、 $M \geq 1.0$ )  
2016年1月の地震を濃く表示



図中の細線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す

震央分布図  
(1923年1月1日～2016年1月31日、  
深さ0～50km、 $M \geq 4.0$ )



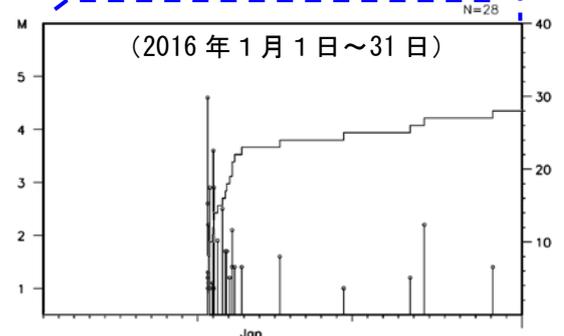
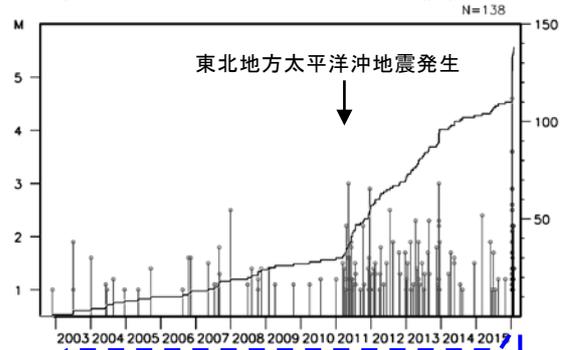
図中の細線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す

2016年1月11日15時26分に青森県三八上北地方の深さ10kmでM4.6の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震は、地殻内で発生した。発震機構は、東北東-西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。震度1以上を観測した余震は7回発生している。

2002年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域a)では、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」発生以前は、M2前後の地震が数年に1回発生する程度で、地震活動は低調であった。同地震発生以降、今回の地震の近傍で地震活動がやや活発になっている。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M5.0以上の地震が4回発生している。1978年5月16日に、M5.8の地震が2回発生し、これらの地震によりモルタル壁の剥落、ブロック塀の破壊等の被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図

